

指導マニュアル: 令和7年度 一般選抜 過去問(国際関係コース)

～日本の敗戦が招いた「力の真空」と「分断の相克」を解説する～

1. 過去問の核心: なぜこの課題文が出題されたのか

本問(小此木政夫『朝鮮分断の起源』)の狙いは、日本の受験生が「他人事」として捉えがちな朝鮮半島の分断を、**「日本の帝国崩壊が招いた直接的な帰結」として地政学的に再認識させることにあります。「日本が負けたから冷戦が始まった」という単純な話ではなく、「日本が巨大な支配空間を消失させたことで、そこに米ソという外部の力が流れ込まざるを得なかった」という「構造の論理」**を読み解く力が試されています。

2. 設問別指導の急所

【問1】「力の真空」の論理構成(200字)

- **指導のポイント:** 生徒は「日本が戦争をしたから」と書きがちですが、不十分です。
- **必須要素:** 1. 日本が版図(朝鮮、満洲、台湾、東南アジア等)を極端に広げていた事実。
2. 敗戦によるその版図の一挙消失＝「力の真空(支配主体の不在)」。
3. その空白を埋めるために米ソが対峙し、東アジアが冷戦の舞台に設定された因果関係。
- **指導コメント案:** 「『版図の拡大』と『一挙消失』の対比を明確に。日本が舞台を『作った』のではなく、日本の『消滅』が舞台を『用意してしまった』というニュアンスを大切にしてください。」

【問2】「独立と統一の相克」の理解(200字)

- **指導のポイント:** 「相克(そうこく)」という抽象的な言葉を、いかに具体的な「不都合な状態」として記述できるかが勝負です。
- **必須要素:**
 1. 「独立の達成」と「統一の実現」の非両立性。
 2. 独立(政府樹立)を優先すれば分断が定着し、統一を強行すれば内戦(戦争)が不可避になるという矛盾。

3. この「不都合な状態」が、指導者たちに「分断体制」を甘受、あるいは武力統一を志向させた事実。
- **指導コメント案:** 『『独立を急げば統一が遠のく』という二律背反を、本文の言葉を使いながら整理しよう。これが朝鮮半島における『知的な難問』だったことを示してください。』

【問 3】分断の要因分析(600 字)

- **指導のポイント:** 外部要因(米ソ)と内部要因(朝鮮の指導者)、そして偶発的要因(原爆のタイミング)を多層的に組み合わせる構成力を指導します。
- **推奨構成案:**
 1. **導入:** 朝鮮分断を「外部の冷戦構造」と「日本の崩壊による力の真空」の交差点として定義する。
 2. **展開(外部):** 原爆投下による急な終戦が、便宜上の境界線(三十八度線)を政治的な分断線に変容させた点(タイミングの重要性)。
 3. **展開(内部):** 問 2 で分析した「独立と統一の相克」を、現地の指導者たちが冷戦の力学を利用しながら固定化させていったプロセス。
 4. **結び:** 分断は単なる「不幸な事故」ではなく、大国の安全保障観と現地のナショナリズムが複雑に絡み合った「システム(体制)」としての帰結であると論じる。

3. 採点時の「合格ライン」の見極め

- **合格圏:** 「力の真空」「安全保障観の対立」「独立と統一の相克」などの重要キーワードを、正しい因果関係で繋げている。また、日本を「被害者」でも「単なる加害者」でもなく、国際政治の「変動の要因」として客観視できている。
- **不合格圏:** 単なる歴史的事件の羅列。感情的な平和への願い。本文のキーワードを使わず、自分の持っている世界史の知識だけで書いている。

4. 指導用ワーク: 生徒への問いかけ

1. 「もしアメリカが原子爆弾を使わず、日本がもっと長く粘っていたら、朝鮮の分断はどうなっていたと思う？」
2. 「ソ連が『防御的空間』を求めたのは、単なる侵略欲からだろうか、それとも国家としての『力の体系』の論理だろうか？」
3. 「『独立』を急いだ指導者たちの判断は、当時の国際情勢(価値の体系)にどう影響されていたと思う？」

講師へのアドバイス:

島根県立大学の過去問指導では、常に**「高坂正堯ならどう見るか(力・利益・価値)」**というフィルターを持たせてください。歴史学的な正確さもさることながら、その裏にある政治的な「力学」を言語化させることで、採点官に「この生徒は大学で学ぶ準備ができている」と思わせることが可能になります。